

● 仕上げ摘果について

- 南水の目標とする玉数：12～14 玉／5 k g DB 中心
- 時期：満開後 45 日まで（6/10～15 頃目安）
- 方法



① 仕上げ摘果前の着果量の確認

非常に多い ⇒ 大至急実施する

多い・適度にある ⇒ 早めに実施する

少ない・極端に少ない ⇒ 袋掛けと同時に実施 又は 通常より遅らせて実施

② 着果位置

側枝（結果枝）1m 当り 5～6 個 ⇒ 20cm に 1 果を目安。

側枝に厚みがある場合（葉数が多い枝）1m 当り 6～7 個 ⇒ 15 cm に 1 果を目安。

横向きまたは斜め横向きの果実を選択する。

③ 果形（果実品質）確認

条溝果・変形果・サビ果・小玉果が多いのか、少ないのかを確認。

サラカムリ型を中心に残す。（有てい果でも問題なし）

④ 軸の長さ・太さ・の確認

軸が短い果実 ⇒ 軸折れや袋掛けが困難 ⇒ なるべく落とす

真上向き果実 ⇒ 軸折れ、日焼け、枝ずれになる、収穫前落果 ⇒ なるべく落とす

注意！着果量が少ない場合は上記の果実も残す（生産量確保のため）

⑤ 注意点

1 年枝上は着果させない ⇒ 条溝果や食味不良

無着葉果その果実は出来るだけ落とす ⇒ 肥大不良となる

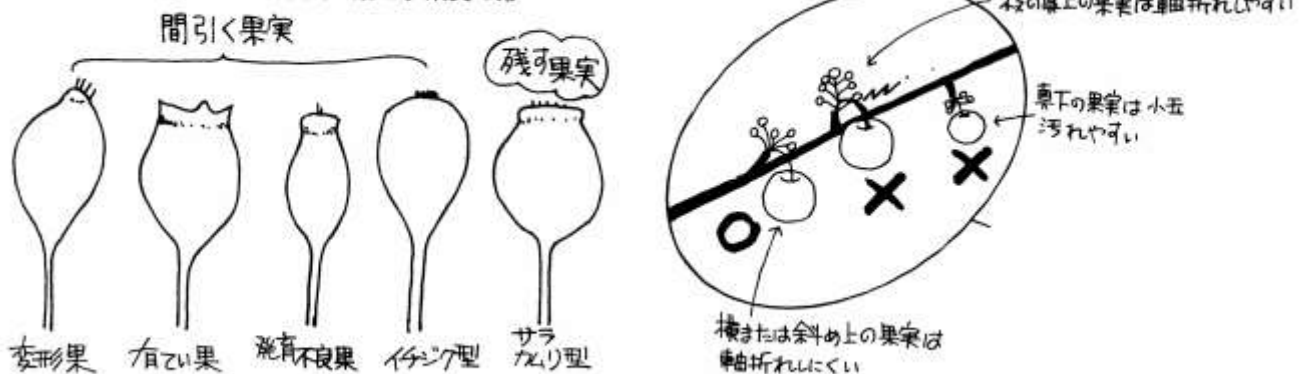
着果数少ない場合は、1 年枝上や無着葉部の果実も残す（生産量確保）

主枝（亜主枝）の最先端は着果させない ⇒ 特に永久樹

有袋：袋掛けの際に確定摘果（樹上選果）を行う。

無袋：7 月上旬に修正摘果を行い、7 月下旬に確定摘果（樹上選果）を実施する。8 月以降も不良果実を落とす。

図87 摘果で残す果実と落とす果実の形



● 結実が不足している場合について

- ① 同一樹内でも結実量に差があるため、結実良好な部分に多めにならせてもよい。
- ② 総結実量が不足している場合は、素質がハッキリしてから最終的な摘果を行い、素質の極端に悪い小玉果から優先的に落とし、着果基準に近づける。
- ③ 結実量が少ない場合は樹勢が旺盛になり過ぎないようにするため、果形やや肥大の劣る果実でも残す。
- ④ 仕上げ摘果時は、果形・果面・果柄の長さ等を上下・左右からよく観察し、変形果やサビの発生程度の著しいものから摘果する。
- ⑤ 1年枝上や無着葉部の果実も残す（生産量確保）
- ⑥ 新梢管理は、新梢の発生状況に応じて間引きや誘引等を行う。（やや遅めに実施する）

● 袋かけ

- 黒斑病が発生する園は、梅雨最盛期前に完了(6月20日頃まで)
- 一般的な園地は7月上旬頃までに完了

品種名	使用袋
幸水	ラッキー1重袋
豊水、あきづき	サン1重袋
南水	特選南水袋

● 追肥・灌水

- 樹勢が弱い・葉の厚みが無い場合は、プレシヤス有機等を降雨や灌水に併せて施用する。（すでに施用してある場合や樹勢が強い場合は必要ない。）

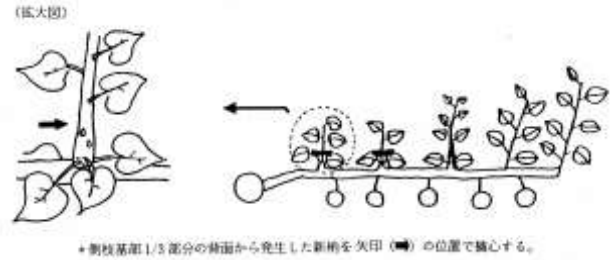
必要量： 1～2 袋／10a

- 土壌乾燥が顕著。当面、定期的な灌水を実施する。1回10～15mm位。
- 苦土成分入り葉面散布資材の利用 ⇒ 葉に厚みを持たせる、葉色を良くする等。

例：グリーンデイズ1,000倍、ビックマグ1,000倍、グリーントップ2,000倍等。

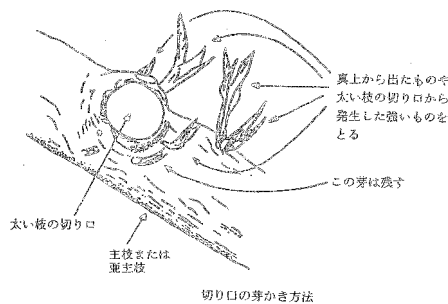
● 新梢管理

- ① 徒長枝整理（幹部、主枝分基部中心）
- ② 必要により 1 芽 2 新梢以上の 1 本化整理
- ③ 徒長枝候補枝の棚へのくぐらせと 45℃誘引



④ 摘心

- 短果枝からの新梢伸長と長果枝となるものに対し実施する。
- 果そう葉 4 枚程度残し摘心する。（4 芽殺し）
- その後も伸びるので繰り返し摘心する。



①先端の芽と同一葉序となる内芽は強く伸び出すので、せん定時に除芽するか、生育の早い段階でかき取る。

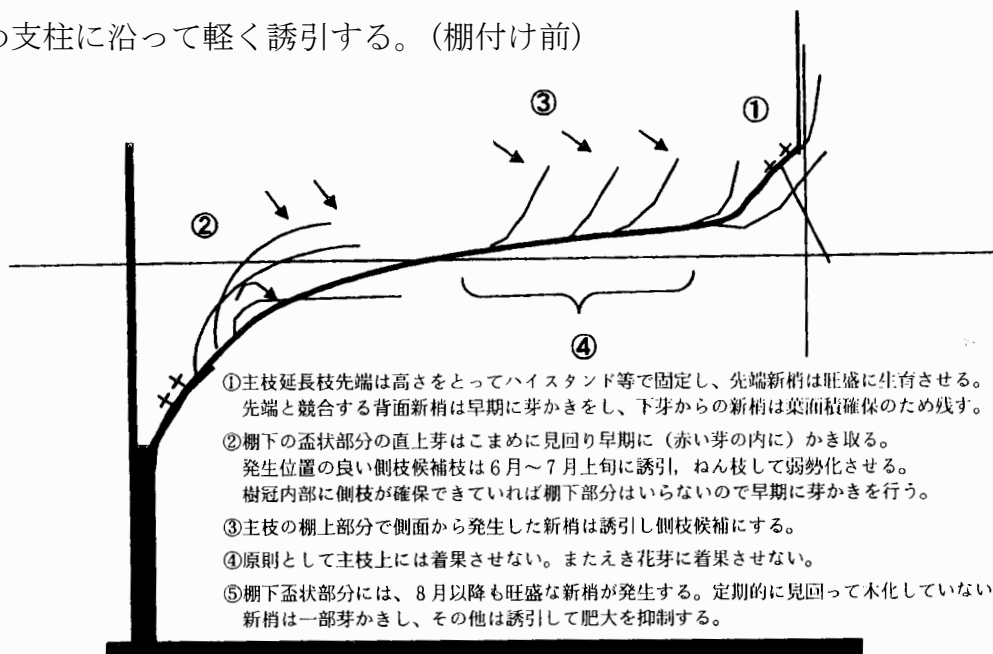


③長めの強い予備枝は先端 2 本立てる。

②その他の新梢で伸び出しそうなのは、4～5 葉で摘心する。

● 夏季管理

- ① 主枝(3 年枝部分)が立ちすぎている場合は、7 月上中旬までに誘引する。
- ② 主枝延長枝は、添え竹等により棚面から 30～40 c m 上げて管理する。
- ③ 主枝先端が強風等で欠落した場合は、近くの横芽から発生した新梢を主枝延長枝として利用する。
- ④ 主枝の半分から先には主枝を負かさない弱めの新梢をなるべく多くおく。
- ⑤ 主枝の棚付け準備：折損を防ぐため枝が柔らかい 9 月にクセをつける。
- ⑥ 主枝先端はせん定時に誘引しやすいように枝が柔らかい 9 月中に縦支柱からはずして斜め支柱に沿って軽く誘引する。（棚付け前）



参考：生産量と売上金額について

今年の実産量と売上予想額を試算してみましょう。

有袋栽培の場合は、袋掛け枚数がひとつの目安となるので、参考に試算してみましょう。

- 南水の着果基準
- 10 a 当り：10,000～15,000 果、果実重 400 g（12 玉サイズ）
- 平均売上単価：300 円（H28 年度）

（例）

◆ 面積：10 a ・袋掛け枚数：8,000 枚・平均果実重を 360g（14 玉平均）に設定

◆ 生産量：果実重 360g × 7,500 枚 = 2,880 kg（2.8t）

◆ 売上金額：2,880 kg × 300 円 = 864,000 円／10a

試算表

① 栽培面積： a

② 袋掛け枚数： 枚

③ 平均単価： 円/kg（各自設定しても良い）

④ 平均果実重：400g（12 玉中心）、360g（14 玉中心）、310g（16 玉中心）

⑤ 生産量：袋掛け枚数 × 平均果実重

⑥ 売上金額：生産量 × 平均単価

⑦ 10 a 当りの売上金額：売上金額÷面積（a）

生産量：② _____ × ④ _____ = ⑤ _____ kg（_____ t）

収入金額：⑤ _____ × ③ _____ = ⑥ _____ 円

10 a 当りの売上金額：⑥ _____ ÷ ① _____ = ⑦ _____ 円